

常盤塾

日時：2016年7月9日（土）10：00～13：00

場所：新国際ビル MBF ハウス

文責：常盤塾ライター 三藤剛照

メンバー：常盤さん、松永さん、今田さん、丸山さん、片平さん、上原さん、松山さん、松崎さん、臼井さん、大下さん、出井さん、古城さん、古川さん

（1）1分間スピーチ

- ・ 古城さん：科学技術に関してあまり変わってない中で、ICT 関係は非常に変わっている。人間も進歩してないね。
- ・ 出井さん：実験器具の話し。
- ・ 臼井さん：現代において、微農制でもして旬などをしっかり知ったほうがいい。
- ・ 上原さん：裾野を広げるには偽物も大事で、本物に誘導するために偽物が必要だ。
- ・ 松崎さん：国によって化粧品に対する価値観が違う。日本の企業のありかたはファミリー感と品質が良い。
- ・ 昌子さん：ヨーロッパ支店の経営層くらいは他国のことを感知しているがその下の層は他国の事は考えないようにしないといけないようなナショナリズムが高揚している。
- ・ 今田さん：博報堂デザインの社長の話し。調和と秩序が審査の基準になっている。企業の論理でなくユーザーの論理で動いている。
- ・ 常盤さん：今日のキーワードは「審美眼」
- ・ 安梅さん：グルジアワインについて。（食べましょう）
- ・ 大下さん：トヨタの工場の立地は元のトヨタの工場に非常に似ているところを選んでいる。
- ・ 常盤さん：水の中と地上で全然違う見た目をする植物がいる。水の中の環境と外の環境が違うのでそれに合わせている。ロタラロトンジフォリア。植物には知性ありという本は読んでみたら面白い。
林業などの衰退や田んぼが無くなっていることで、国に保水力が無くなっている。北朝鮮もそれがひどい。
- ・ 片平さん：お椀によって味が違う。それは実感してもらわないとわからない。何もわからない人に対してどのようにそのものの良さを知らせることが出来るか。（ワイングラスについて）このくらい実感することが無いと、物のよさを知ることが出来ない
若いうちに場を作って良さを体でわからせないといけない。車の人気がないのは助手席に子供をのせないから。
- ・ 古城さん：現在は子供が助手席にのってはいけないことになっている。

(2) 常盤さんのお話

・グローバリゼーションなどを含めて西洋にかぶれすぎているということに関して警鐘をならしたコラムについての話。

・西田幾多郎：文明開化とは西洋の技術を日本に移植することであり、哲学では西洋流ではなく自身の哲学を持たなくてはならない。日本は明治以来、即席の西洋のものを移植したものにしかなく、内発的でない。

・純粹経験というものはどのようにして得られるか、それは自分を無、空にするということが真実の存在をすることに繋がる。それが日本の文化の本質に近づける。善の研究とはこの考え方につうじる。

・一方西洋のほうは、「私」があってそれを主体として全体を見ていこう、そして外にあるものを制御しようとする。これは日本と全く対称的。

・日本とグローバルの対抗の中には「有」と「無」の対抗という考えがあるのに、「有」のほうしか見えていないところが、問題である。今日本の企業が成すべきことは、グローバル化というかけ声よりも自分自身の哲学を持つことではないか。

・イギリスについても EU の中ではイギリスという国が確立できないのではないかとといった考えはこの考えに繋がる。

・経済の成長が鈍化してしまったことが「失われた 20 年」の意味ではなく、生きることの質に目を向けなかったことがその意味ではないか。

・グローバル経済に日本の命綱を預けるような生き方のみに日本の在り方があるわけではない。

・成長、効率、競争などの価値観を転換していく必要がある。この価値観の妥当性に関する議論が無いことが最大の問題である。

・グローバルにする理由は経済を伸ばしたいから、これは手段にすぎず目的ではない。

改めてグローバルと日本、そして生きる幸せについて議論する時期ではないか。

・ 上原さん：「無」の論理っていうのは本当にあったのかっていうのは疑問で、農家の貧しさや武士の精神性やどのあたりが無の論理なのか。

現象として問題意識を持っているのは例えば子供の貧困について、どのように解決するのが正しいだろうか。

・ 今田さん：貧困などに関しては分母が大きすぎるそのため、分配のほうが上手くいっていない。

・ 片平さん：無の話しの一つの回答は老子。

・ 常盤さん：お金で解決しようというアプローチにも限界がある。心の方向から解決することもある。

・ 松永さん：かつて日本の財を作った人は未来への投資としていろいろ行っていた。

・ 上原さん：大学などへの寄付のような未来への投資は海外のほうが進んでいる。

- 片平さん：価値観が出来上がる小学生あたりに価値観の教育ができればいい。人をつくる「先生」が多くでてきてほしい。
- 大下さん：学校が地元の人寄付によって成り立っていた時代もあった。そのころは教育のほうに興味があった。
- 片平さん：純文学のようなものを持っているませたひとが少なくなっている。
- 松永さん：それに関連して、現在ではかつての人々が行っていたような、答えの無い問題に向き合ってきた時間が非常に少なくなってきた。